

莊子思想の淵源(概要)

趙允來

1363

3



No.

No.

莊子思想の淵源
(概要)

趙允來

早稲田大学論文用紙



No. 2

No. 1

概要

早稲田大学論文用紙

前後編からなる本論文は、莊子思想の淵源を模索するところにその趣旨がある。前編では莊子思想の源流となるものには巫者といし巫俗が関連してあり、莊子の中に見らる一種の宗教的、神秘的色彩を帯びた記述は、それから生ずるということについて述べる。後編は、上代思想史において天官職の果としてきた役割の検討を含めて、儒墨を始めとする諸子の学の性格を考察、それらと莊子を構成



No. 4

No. 3

する雑多な思想との係わりにつき、試見を述べ
 ことにする。

では何故この^四莊子思想の^四淵源が、いさゝか問
 題になるかというところ、現行三十三篇本莊子は
 劉向・郭象らの手によつてかゝりの量が削除
 されたものであつて、旧本莊子の思想をその
 まゝ伝ふていゝからである。削除の量は現
 行本の三分の一にのほり、その篇数は十九篇
 となる。郭象が旧本を現本に再編成する際、
 削除した佚文の性格につけて述懐した文には

早稲田大学論文用紙

れは、(序編参照) 旧本は^四山海經^四 淮南子^四、
 占夢書、刑名書、或いは詭誕の言に類するも
 のが全体の三分の一であつたところ。とこ
 で、この佚文の内容につつては知るすべから
 く、ただおぼずかの量のみ先人の蒐集によつて
 窺ふる程度に止まる。

従つてこの^四莫は^四編外としてあつて、さうは
 問題となるのは次の二点がある。まず、^四従来
 の通説として行われてきた莊子觀は道家一般
 の思想と同じ次元で^四捕^四ら、それと同様の解釈



No. 6

No. 5

述べてきた。

しかし、以下述べる前編の論

旨から推すと、

莊子全体の思想の源流は必ず

しも一般の道家とは異質的な要素が少なくない。

これがいちゆる巫者系思想と言えよう。

ある。次に、道家という場合、自然なるもの

に身を任かせるとして己れの欲を棄てて心の

和平を得、自由の境地に処するというのが一種の

処世術に旨のある人々のことであり、その処

世の根據として打ち出されたのが天道である。

すなわち天道の成すことは常に無為自然と言

早稲田大学論文用紙

あるからである。ところで、このように天道

を説く諸子、すなわちこれに準ずる思想を述べ

てゐる先秦の諸子すなわち道家といふその源

流となる人物を挙げる時、非常に曖昧かつ困

難な点が多い。そこで、莊子の道家的思想の

源流なうし、影響もあたらしく人物の天下

篇に並記されてゐる諸子である。(序論参照)

ここの諸子の特徴は皆衆者であつて、衆者と

は本来天官職より没落した遊士、説客、術士

と稱してゐる人物である。ところで、彼らの



No. 7

説く思想をより検討して見ると一つの共通性を見出すことができる。すなわち、兼愛、寡欲、偃兵という理念をもつてゐる。また、このように思想は即ち道家の思想と云ふことができる。或いはある程度接近する思想と云ふのである。これらの諸子が楊朱を始めとする宋鉞、尹文、田駢、慎到、恵施、公孫龍等であり、彼らの思想を総して杂者系思想と云ふのである。以下各章ごとにその要旨を記す。

早稲田大学論文用紙

No. 8

前編 莊子と巫

第一章 巫咸説について

殷代大戊時の咸戊であつた巫咸は、彼が就いてゐた職によつて巫咸と称せられるようになり、その説話は尚書、莊子、呂氏春秋、山海経等によつて傳承されてゐる。この文献中、最も注目される記事を収録してゐる。この莊子であつて、そこには次のように記されてゐる。それについて、まず、天運篇首の「巫咸詔曰」以下の文は、天道の運行や秩序等を主宰する



ものか、いつたり誰であらうか、という内容
 を巫咸が自問自答する記事である。そこで
 そこに見えろ用語中、例えは「方極」「五常」「九
 洛」は尚書洪範篇のそれと同様であり、洪範
 篇は本来巫者と関連のある篇である。それ
 藤野岩友博士によれば、その文章自体が依然
 として巫系文学的要素を帯びていて、
 次に莊子佚文中には、黃帝の世に巫咸が人民
 の疾病を治療する、という巫医の記事が見え、
 さらに、応帝王篇には当時著名であつた觀相
 家としての神巫季咸という名が見えるが、こ
 れは本来の巫咸を寓話構成上、神と季字を加え
 たにすぎない。これらの裏によれば、むしろ
 は莊子學派には巫咸崇拜者が雜つてゐたかに
 考えられる。

第二章

莊子寓話に見えろ身不全者

莊子の寓話構成手法は實に巧妙であり、そ
 こに見えろ人物も史上の著名人物から自然
 界の名前の擬人化に至るまで様々である。と
 ころで、徳充符、大宗師等の篇には今まで寓



No. 12

No. 11

早稲田大学論文用紙

熟中の架空人物とされたりた人々に身不全者
 が少なくなく、しかも彼らは、いずれも体道
 者、有徳者の典型として描寫されてゐる。例
 えば、支離疏、哀駘它、兀者、王駘、伯昏無人等
 がそれである。莊子^四が身不全者を体道者とし
 て説いてゐることに、従来^五の学者は、
 道と徳というものは外形と全く関係のないと
 いう趣旨の解釈をしてきた。しかし、上引人
 物を含めて、さらに南郭子綦、壺子等も皆巫
 者と考へられるのであつて、とくに注目され
 る人物は、南郭(伯)子綦(葵)、支離疏、王駘、伯昏
 無人、列禦寇等である。一、なおこれらの人物を
 巫者であつたとする説は、早く加藤常賢博
 士にまつて行われてゐるが、小論はそれを補
 完する意味をももつてゐる。二、兀者、王駘の
 兀について、従来の注釈字は、釈文の音義に
 従つて、兀部の一画の兀と考へ、これをゴツ
 と讀んでゐる。しかし、それは誤りであつて
 尤まはは、兀部に屬する字であつて、音はワウ
 である。三、伯昏無人は盲人の巫者と考へ



られる矣。

四。

列禦寇はその交友関係をいし

逸事から推すとおそく巫者(方士)の術数の一

部である幻術に立志していったと思われる矣。

以上の諸矣を考へ併せると、

莊子に見える身

不全者は殆ど巫者と言ふのであつて、それ

故に体道者、有徳者として推尊してゐると思

われる。

第三章 莊子の得道観

莊子は道を得ることを頻りに主張してゐる。

道家のいう道の概念は自ら然るもの即ち運命

早稲田大学論文用紙

的天道を指すものであつて、この場合の道

は体得するものでなく、それに身を任かせ

る、或いはそれに従順する意と解されるので

ある。にもかかわらず、体道を強調するのは

それだけのわけがあつたはずである。体道が

いつたいいかなる状態を示すのであつたか、

その矣を考察する好例として挙げられるのか

次の文章である。まず、寓言篇には東郭子と

顔成子游との得道問答文中に、六年而鬼入

とあり、知北遊篇には、齧缺が被衣に得道の



秘法を問ひ、それに答えて被衣が、「神将来舎

することによつて、道と徳が身に得られると

し、さらに心齋を語る文中にも、心齋するお

ち心を虚なる状態におくことによつて、鬼神

将来舎」といふ旨が見える。かくして見ると、

神靈を問題とするのは到底哲學的思想の領域

とは考えられず、むしろ体験を重視する神秘

性は宗教の世界に属するものであると見える

のである。従つて、このような思想の源流は

巫者の身に降神した境地を示すと考えられる。

早稲田大学論文用紙

要するに体道は体神の意と解されるのであつ

て、このような観念に立つて莊子の得道に関

係ある思想の殆どが巫者と繋がつていふと言

える。例えば、心齋、坐忘といふ前章の身不

全者の巫者によつて語られていふ一連の思想

がそれである。

第四章 神人、真人についで、神僊思想の

史的考察――

莊子逍遙遊篇に見える藐姑射山の神人物語

が秦漢代に盛んに流行していった神僊思想と深



No. 18

No. 17

早稲田大学論文用紙

い係ありを電つてゐること、またそこには巫
 者の介在していること、について述べるもの
 である。まず注意したいのは、①その神人の
 超人的能力が、大浸稽天而不溺、大旱金石流
 土山焦而不熱、と記されてゐる。②その
 状況について、肌膚若冰雪、綽約若處子、不
 食五穀、吸風飲露、乘雲氣、御飛龍とあつ
 て、これが神僊家の追求するところと同旨で
 ある。莫、等である。①で知られるように、こ
 こにいう神人とは、上代において、最も恐れ
 るべき事象とされる水、旱の主宰者であり、
 これは本来山河神か人格化したものと思われ
 る。従つて、諸神を奉ずる主役が巫者であつ
 たことや、こうした神のごとき超人的能力を
 認定するものが巫者であつたことなどを考へ
 併せること、神人の出現背景には巫者が関連し
 ていたことが判る。②は秦漢の方士や後世の
 神仙家が希求する不老長生のための術として
 の辟穀を思はせるものであるが、注意したい
 ことは、神人の住むとする藐姑射山とは、実



No. 20

No. 19

は秦漢方士のいう三神山にほかならぬと考へられるものである。すなわち山海経、列子にあれば、藐姑射山（列姑射と記す）は東海の彼方にあるとされており、その位置は三神山のそれと殆ど合致する。勿論ここにはう藐と列は形容詞であつて、姑射が本地名である。ところで三神山は渤海湾海上に在ると伝へられてゐる。しかし、これは本来は実在のものではない。一種の蜃氣楼現象による虚像であり、姑射山も同様である。従つて姑射山と三神山共

早稲田大学論文用紙

に渤海湾海上の非実在の山であつたというものである。さらに注意されるのは、神僊思想を宣傳したという方士の徒は、史記封禪書等にまつて知られるやうに、巫祝がその中心であつたと思われる。これは要するに、莊子の藐姑射山神人の物語はいわゆる秦漢方士群と同じ基盤に立つ人々にまつて構成されたものであつて、莊子と巫祝との関係は、この点から推察されよう。



No. 24

No. 23

早稲田大学論文用紙

黄帝が世にあらわれたのはおそらく戦国末期頃であつて、その説話を記している文献は庄子、列子、山海経、呂氏春秋などの道家なつし雜家系の書である。ところで、これらの文献に見える黄帝説話を分析、検討して見ると次のように分類される。一、文字、舟車、音楽、兵器等、文明の創始者であつたとする説。二、陰陽を司り、その調和をもたらすというように陰陽に係るとする説。三、蚩尤討伐の物語によつて示される兵戦の祖。四、秦漢代の方士によつて昇仙の物語が作られたように神仙皇帝としての説。以上の点から黄帝の記源を探ると、これはおそらく上代の人々が人類の創始者、支配者は上帝であつたと考えることから来たものであり、その人格化である。このような黄帝説話はおそらく庄子一派の作つたものと思われ、庄子における黄帝説話の中、例えば黄帝が陰陽説と神仙思想と関係ある点から推すと、同説話の作者にはおそらく巫者が係つてゐたと考えられる。



No. 26

No. 25

後編

莊子と諸子との関係

第一章 道家の起源

道家の起源に關する従来の通説は、(1)殷

の遺裔、(2)宋、楚という南方の思想、(3)

隱者による思想、という觀点で考へてゐるま

うであり、また古くから行われていた漢人の

分類を見ると、道家を概述して、司馬談は

精神專一、采儒墨之善、提名法之要と記

し。班固は六家要旨の道家を道家と雜家に分

早稲田大学論文用紙

けてゐる。すちち漢志の道家は六家要旨に

比べ狭意であり、雜家は諸家を包括するもの

とし、それに、道家は史官、雜家は義和の官

より出たといふ。ところで、様々の状況

から考へると、道家の起源も同じく没落天官

職にあるらしい。例へば、漢志のいう史、義

和も本来は天官職の一種と考へられるのであ

る。すちち儒家の特徴は礼や文を修めると

ころにあるが、これは天官職の祝系が神事の

儀式やその式辭を司ることから生じたことと



No. 28

No. 27

同様に、道家の特徴とされる処世術は天官職のうち主には天象と人事の問題を觀察する史系より出発したと考へられるのである。

第二章 弁者との關係(一) — 名家を中心として —

名家という学派やその思想は莊子等に断片的に残っており、しかも、後人は彼らを詭弁と論ずるものと評語している。その思想を窺へる記事が天下篇の「歷物十条」「二十一事

早稲田大学論文用紙

という命題である。しかし、名家といわれる鄧析、恵施、公孫龍らの行跡を探ると、彼らは当代一流の弁論家であり、政治家であつた。もちろん詭弁を弄した痕跡はあるが、それは当時の諸子一般に見られるものであり、また彼らの論理に留意したのは諸侯に対する説得をより有利にするための工夫であつた。そこで、ここで注意される点は彼らの思想と道家とを結びつけるものがある。それは、例へば莊子、呂氏春秋には彼らが天道、寡欲等



を説いたという記事から知られる。

第三章 弁者との関係（二）その他の思想家

を中心として――

莊子思想の源流と考へられる諸子はまず楊朱であり、また莊子天下篇に記されてゐる宋鈞・尹文・田駢・慎到である。孟子に於ては、楊朱は爲我主義であつたといふが、しかし、呂氏春秋、淮南子等に於ては、貴生、輕物重生を説いた思想家であり、この点では道家

早稲田大学論文用紙

の旨と合致する。宋鈞、尹文の思想は寡欲、寢兵にあり、田駢、慎到の思想は棄知、齊物にあるやうである。従つてこれらの諸子は道家的思想の持主であつたと言へるのである。莊子思想形成に影響をあたへたものと考へられるのである。さらに注意されるのは、上引諸子と老子との関係である。すなわち彼らが莊子の源流となつてゐることは、作者と編成年代が不分明である老子の作者であるとして推定できるのである。何故ならば、老子と莊子とは本



No. 32

No. 31

宗旨を同じくする文献であると言ふからで
ある。

附四章 莊子に見る孔子説話

莊子に見る孔子とその門弟によつて説か
れてゐる思想は殆ど道家的である。とこ
ろで、田子方篇では孔子やその門弟の出現頻度数
の多い處に留意して一部の先人の間では莊周
は本来顏回や田子方系の人物であらうとす
る説が行われてゐた。しかし、孔子説話をよく分

早稲田大学論文用紙

析し、その裏を探ると、盡く批判されてゐる
のであつて、^反に孔子を稱讃するところがあ
つたにせよ、それは莊子の寓話構成上の逆説
的表現方法であつて、決して莊周一派がその
流れをくむものであつたから孔子説話が
多かったわけではない。要するに、莊子が孔子と
その門弟らを寓話の主人公とした底意は、当
時著名であつた孔子らの口を借りて身不全者
を体道者・有徳者と讃美するところにある。

附五章 莊子に見る老聃説話



No. 34

No. 33

早稲田大学論文用紙

莊子の老聃寓話中、主に孔、老会見譚を中
 心に述べて見る。老子の作者が老聃とモ
 思われる記事、また老聃が孔子の師と考へら
 れる内容の文章はおそらく莊子の最初の文献
 と言ふるのである。問題は莊子が老聃を老子
 の著作者や孔子の師として寓話を作る根據が
 どこにあつたかその点である。それは楠山春
 樹博士の説によれば次の通りである。すなわ
 ち、礼記曾子問篇には、若い頃の孔子の師は
 老聃であつた。ところで老子が世にあらわ
 れるようになると、その著作者の問題となる。
 そこで莊子一派がこの記事を奇貨おくべしと
 考へ老子の著作者と定め、また孔、老会見譚
 のやうな寓話を作つたという。この博士の説
 を裏づける記事は莊子養生主篇の老聃寓話と
 言ふるのである。
 さて、以上では莊子思想の源流となるもの
 は没落天官職の巫者と弁者による思想の主流
 であつた点を指摘してきたが、以下では、質
 と次元を異にする巫者系と弁者系の思想がい



No. 36

No. 35

かにして融合可能であつたか、その点について述べる。

まず、両者の異質性から一考すると、巫者は古代の宗教世界を掌管してゐた一種の宗教人で、宗教に従事してゐたから、彼らによつて生ずる思想は神秘的要素が強く、また体験を優位とし、神秘的体験の世界は理論と論理を超越する特徴がある。要するに、巫者は人間を含む宇宙萬物の主宰者か神、靈と考へる敬神家であつた。一方、弁者は、神、靈の存

早稲田大学論文用紙

在を認めず、宇宙萬物は「自然」の道にまづて形成・運行されるを考へる、いわば敬天家であつた。従つて、弁者の思想はさうぶに科學的、論理的面を存してゐる。次に両者の融合可能であつた点について見ると、巫者も弁者も本来は諸侯に依付して出世を望む徒には變りがない。そこで、例えば、治國の根幹となるものについて説く場合、巫者はまず君主に体道すなわち心の虚を状態を保つこととを、弁者は寡欲を主張する。いづれにせよ



No. _____

No. _____

37

結局両者の論旨は処世論において全く相通
しているものである。

このように^四莊子の二大思想史潮流は、後世
になると、巫者系の思想は後漢末以後成立し
た道教の成立に、弁者系の思想は魏、晋の玄
学形成に各に継承、発展せられるのである。

「^一の
思想の
流れ」

早稲田大学論文用紙